



学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

ちょっと待ってください。


その行為、その行動は・・・

子どものため・・・ですか？

それとも

自分のため・・・ですか？

ちょっと考えてみませんか？



本校の、ある子どもとお母さんのことです。

ある日の朝、学校に遅れそうな時間になってしまったので、『車で送ってほしい。』とお願いしたところ、お母さんからダメだと言われ、その子は泣きながら歩いてきたようです。そしてお母さんは、歩いて登校するその様子を近くから見守られていたとのこと。(途中まで車で後ろからついていらっしやったようです。)

このお母さん、素晴らしいなと私は思いました。このお母さんの中では『何を大事にして子育てをするか。何を、どうすることが、この子にとって大切なのか』ということがとても明確であると思います。

今だけを考え、子どもの言うことを聞き入れ学校まで車で送った方がお母さんにとっても楽だったはずですが。「いいよ。」と送ってあげれば、その時はお子さんの笑顔を見ることができたでしょう。「学校に間に合うかな。」「一人で歩いて大丈夫かな。」「私のこと嫌いになったかな？」 そんな心配や気苦労もする必要がありません。ただしそれは本当に『子どものため』でしょうか？『自分自身の安心や満足感のため』ではないでしょうか。

このお母さん、安易に妥協せず、毅然とした態度で断り、お子さんの自分の力で歩かせてくださいました。そこにはお母さんの我慢や忍耐が必要です。「今すぐ車に乗せて送ってやりたい。」「泣いている子どもの笑顔が見たい。」泣いて歩く我が子を目の前にしながら、お母さん自身がそんな気持ちをグッと抑え、少しずつ辛い気持ちを味わうことになるかもしれません。それを我慢するのは心苦しいことです。



ではなぜ、そう行動されたのでしょうか？


きっと「今、その瞬間の安直な笑顔」よりもお子さんの「未来の笑顔。将来の自立した笑顔」を思い描かれているのだと思います。将来の『自立』のためには『今のうちに自立への土台を育てよう』とお考えなのだと思います。その考えや行動は、『子どものため。将来の子どものため』のものであると言えます。

子育てに関わっていれば、自分の行為・行動について、このような選択の場面はいくらでもあります。

「今、自分達がしているその事、その行為、その行動」は、

「自分が安心したり、楽をしたりするためではないのか。」

「子どもの学びや育ちのためになっているのか、『自助力』や『自立』に繋がっているのか。」



誰もがやってしまうことだからこそ、こんな視点をもって、考え、判断し、行動してみませんか？

なかなか思うようにはいきません。子育ては、難しいものですね。自分自身が「我慢や忍耐」を強いられることが多々あります。でも仕方がないと思います。なぜなら私達は「親」だからです。「親」であるからにはそれに伴って「親としての責任」があります。宝物である子どもの笑顔と未来のために共に頑張りましょう！